
彼女の魅力

山田太郎左衛門

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の魅力

【Nコード】

N7970L

【作者名】

山田太郎左衛門

【あらすじ】

現代版「幸福な王子」

・・・違うような気もする。

きつと彼は彼女を愛し続けますよ。

真実の愛はあるに違いありませんよ。

「僕は彼女を愛しているんだ」

その声に応えるように次々と声上がる。

声の主も、言葉も違ったが、自分もそうだと宣言する声だった。

彼らは恋のライバルと敵対するよりも、共通の想いで繋がっていることを素直に喜んでいるようだ。

今や彼らは車座になって胸のうちの感情を讃えあう。

その輪から少し外れた場所から声が上がった。

老人のような、しゃがれた声であった。

「君達はみんな彼女を愛しているということはわかった」

声の主は続けていった。

「けれど彼女が欲しいとは思わないのかね？」

この主張は大それたことだともいうように空間はざわめいた。

しばらくするとまた声が上がった。

はじめに彼女への愛を宣言した少年だった。

「むろん、欲しいに決まっているが、彼女の体はひとつじゃないか。我儘で和を乱してはいけないよ」

そうだ、そうだと彼らは賛意を示す。

「じゃあ質問を変えよう。君達はそれぞれ、彼女のどこが好きなんだね？」

途端に空間は活気を取り戻す。

「僕は足だな。あのスラリとした足が魅力的なんだ」

「俺は彼女の手が好きだ。長い指には惚れ惚れする」
それぞれが彼女の魅力を挙げていく。

瞳、肌、髪、鼻、耳・・・

回答に満足したように、しゃがれ声の男は言う。

「では、それぞれが恋人になれるじゃないかね」

私は家を出ていつもの通学路を歩きます。
通いなれた道を浮かれた気分です。
あの人の恋人になって初めての朝でした。
今日は彼と車で待ち合わせしているんです。
彼に会えるだけで気分が浮ついていいます。
気持ちいい朝の空気を吸い込みます。
けれど上手く空気が吸えません。
ああ、そうだった。私は鼻が無いんだ。
何を勘違いしていたんだろう。
私はいつもの癖で髪をかきあげようとします。
けれど私の自慢の黒髪の感触がありません。
それもそのはず、私には髪がないんです。
それにかきあげようにも手が無いわ。
私は気を取り直して空を仰ぎます。
いつもの景色も違って見えるみたい。
いい天気のはずなんだけれど、なんだか真つ暗。
それにとっても静かなんです。
なんだか駅までの道もいつもより遠いみたい。
私には足が無いから駅まで這って行かなくてはなりません。
それでいつも服を汚してしまうの。
肌もないから体表筋が見えてしまっています。
こんな私を彼は本当に愛してくれているのかしら。

彼らは恋人と一緒に幸せそうだった。
しゃがれ声の男が声をかける。

「君達、満足したかね」
彼らは男の言葉を肯定した。

「ところで、本体の方が欲しい者はいないのかね？」

少年の聲がそれに応えた。

「あんな気持ちの悪い物、愛するヤツはいませんよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7970/>

彼女の魅力

2011年1月16日00時49分発行